



2021 夏のおすすめ本 5・6年生

『ぼくは本を読んでいる。』

ひこ・田中／著 講談社

両親のどちらかが小学生のころに読んだはずの本を、家の『本部屋』で見つけた。ルカはなぜだか、それを親に隠れてこっそりと読みたくなった。ルカの父や母、友達どうしの会話がとてもおもしろく素敵で好感が持てます。「読書離れ」とか言われてしまう今時の子どもたちよ、本好きでなくても、読書はできる！

『明日をつくる十歳のきみへ』

ひのはら しのぶ／著 富山房インターナショナル

今こそみなさんに伝えたいのは「いのちと時間」についてです。そこで大切なことは、「ゆるしの心を持つこと」と「おとなになったら人のために自分の時間を使えるような人になること」です。長生きすればもっとたくさんの時間を人のために使うことができる。それが「生きる」ということなのです。

『あの夏、ぼくらは秘密基地で』

みわ ひろこ／作 水上 みのり／絵 あかね書房

おじいちゃんの秘密の山荘？山登りが大好きな小学生のケン。夏休みに亡くなったおじいちゃんの秘密の山荘があると知り、調べに行くことに。するとそこには、思いがけない出会いが待っていた。自然の中での楽しい生活、子どもたちの成長、そして、おじいちゃんが山荘を残した意味とは…。

『ライオンと魔女』

C.S.ルイス／作 瀬田貞二／訳 岩波書店

疎開先の古い屋敷で暮らしていたピーターたち四人の子どもたち。ある日、大きな衣装ダンスの中に入ると、そこは雪つもる別世界ナルニア国へつづいていました。白い魔女に支配された国を救うため、ライオンの王アスランと共に戦う大冒険！

『みどりのゆび』

モーリス・ドリュオン／作 安東 次男／訳 岩波書店

みんなからチトと呼ばれる男の子がいました。チトは、さわるとどんなものにも花を咲かせることができる「みどりのゆび」を持っていました。チトは刑務所や病院、町中にも花を咲かせます。戦場の砲にも花を咲かせて、戦争を終わらせてしまいました。このチトという男の子は、何者なのでしょう？

『海べの町のたぬきともだち』

たかはし ゆいこ／作 福武書店

僕は、岩清水しゅういち。海べのなぎさ町に引越してきてから、毎日とっても楽しい！ひじきをとったりシュノーケリングしたり、新しい友達もできた。庭にやってくるたぬきやぬえもんじいさんとも仲よくなって、ますます自然豊かなこの町が大好きになったんだ。ところがこのあたりをリゾート村にしようという計画がでて…。

『あしたのことば』

もり えと／作 小峰書店

小学6年生の少年・長沼裕は、父親と二人で横浜から福岡県へ引っ越した。6年2組はほのぼのして、いいクラスだと裕は思うが、ときどきも、わくわくも感じられず、なんにもしていないのに、朝から晩まで、ずっとつかれている。しかしある日のこと、裕は「ケイドロやらん？」とさそわれ、それをきっかけに変わっていく。表題の話「あしたのことば」の他、6年生の国語の教科書に載っている「帰り道」など、8つの物語が入っている。



小川町立図書館